

# 『地蔵堂のタヌキとタニシ』 ～貝塚に伝わる民話～



① むかし、貝塚の地蔵堂村に、タヌキさんとタニシさんがおりました。タヌキさんは、四本足なので、速く走れます。タニシさんは、ゆるゆると歩くのび、遅いペース。ある日、タニシさんは、「かたじけなくもね。」と言いました。

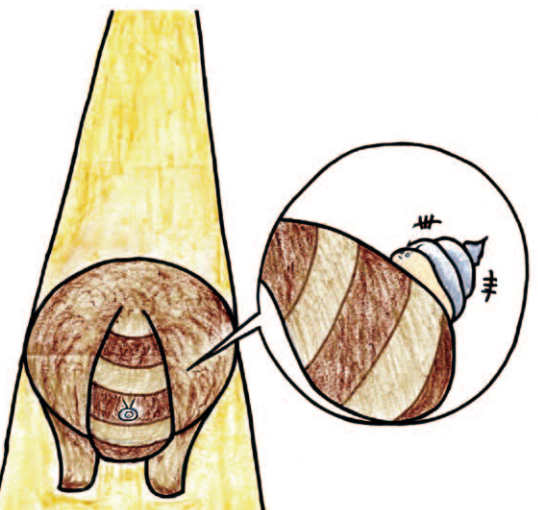


② タヌキさんは、「早くお参りしたいよ、ぼくが勝つよ。」と、お参りしたいと言いました。しかし、タニシさんは、「かたじけなくもね。」と、お参りできません。タヌキさんは、「かたじけなくもね。」と、お参りできません。ある日、一本杉まわりの木を指しました。二十メートルほど先にいる大木を、指しました。たぬき、タニシさんは、「そんな、近すぎますよ。」いやだ。堺の向いの住吉神社(大社)のたいこ橋まで、かけっこうか。」と、なんでもなすいと言いました。



③ タヌキさんは、「何を言っているんだい。あそこまで行けば、ぼくが走っても、半日はかかる。君がはって行けば、一生かかってもたどり着けな。」と言いました。たぬき、タニシさんは、「くそ、タヌキさんは、あそこまで、半日もかかると、ぼくなら、せいぜい、一時間もかかると、言いました。」

タヌキさんは、とうとう、本気になった。たぬき、タニシさんは、「そんなら、さっさと行かないか。」と、地蔵堂村の一本杉のそばから、住吉大社のたいこ橋まで、かけっこうするところになりました。



④ 「たぬき、たぬき。」タヌキさんは、思いつきで走り出しました。そのときタニシさんは、こっそりタヌキさんのしっぽに乗りうつり、しがみつきました。そして知らないタヌキさんは、全力で走って、たいこ橋に着きました。そして、タヌキさんは、走ってきた道をふり返し、「へへ、これでぼくの勝ちだな。」と思えました。



⑤ そのとき、タニシさんは、乗っていたしっぽから、急いでおりました。そして、タヌキさんの足もとから、「おそかったねえ。ぼくは、ずっと前に着いて、待っていたよ。」と、声をかけました。勝ったタニシさんは、たいこ橋の隅から、お参りし、「長年のながいかなって、ここまで来るよができました。これからは、お宮さんの水辺で、くらしします。」と言って、たいこ橋から水辺にどびっこみました。

みなさんも住吉大社に行つたときには、たいこ橋から水辺をのぞいてみてください。貝塚に住んでいたタニシさんの幸せそうにくらす様子が、見られるかもかもしれませんよ。